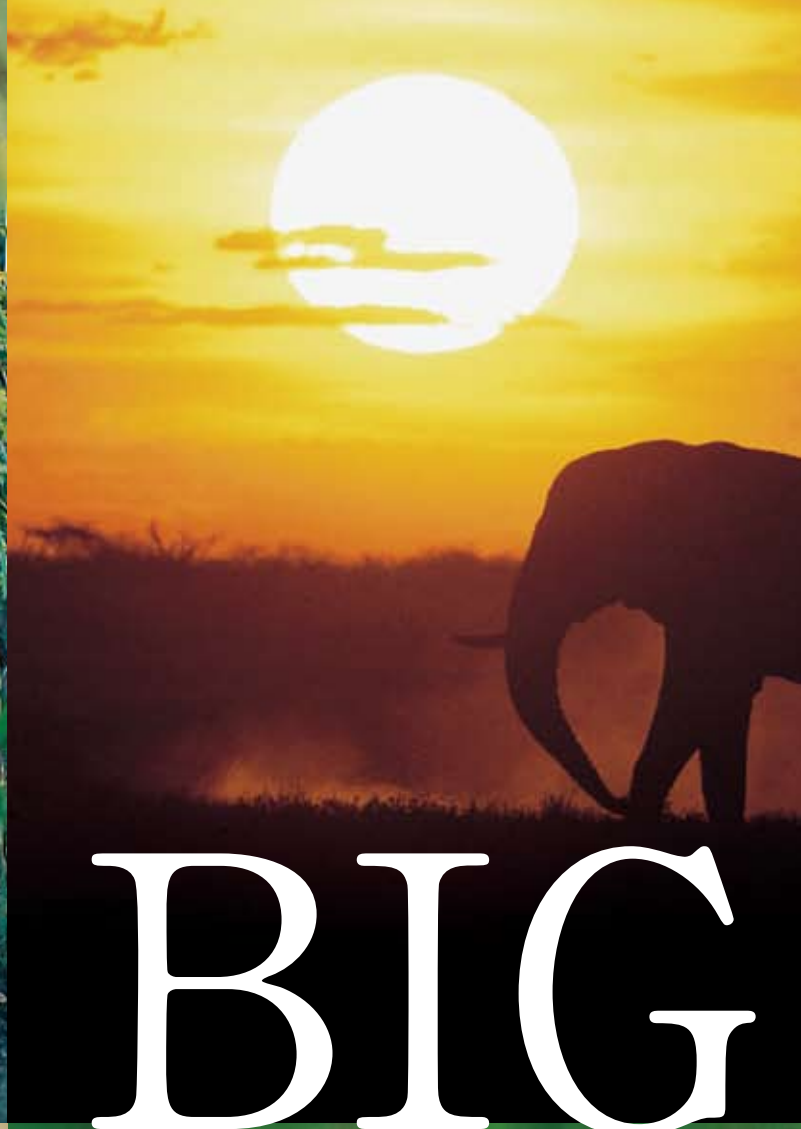
ヒョウは単独行動が多く、夜行性でもあるため、見つけにくい野生動物のひとつ。



BIG

ゾウに次ぐ大型陸棲ほ乳類のサイ。クルーガー国立公園にも生息するが、
現在、絶滅の危機に瀕しており、その数は限られている。

バッファローは水辺で頻繁に見つけることができる。
大規模な群れを形成して行動する野生動物だ。

南アフリカ観光局 www.south-africa.jp

5＋2 ビッグ セブン

ビッグ5＋2（ビッグ・セブン）とは、陸のゾウ、ライオン、サイ、バッファロー、ヒョウと海のクジラとホオジロサメのこと。陸のビッグ5はかつてハンティングの対象となった大型野生動物で、現在は南アフリカの紙幣にも描かれるほど象徴的な存在となっている。一方、クジラとサメは海の二大巨大動物。陸だけでなく海でもサファリが楽しめるのは南アフリカの大きな特徴だ。どの動物も大自然の中で大きな存在感を示す。サファリで出会えれば、それだけ感動も大きい。

前脚

ゾウの生息地としてはクルーガー国立公園が有名。その巨体のためビッグ5の中でも比較的見つけやすい動物だ。

ホエール・ウォッチングも南アフリカのハイライトのひとつ。特に繁殖期の9月から11月は至近距離で見ることができる。

言わずと知れた百獣の王ライオン。北部カラハリ砂漠地帯に生息するカラハリライオンは特に貴重な野生動物だ。

海のギャングとよばれるホオジロザメ。その獰猛な姿を間近に見ることができるケージダイビングも人気。

©www.lichtag.com

動物が主役のエコツーリズム

南アフリカには陸と海に多彩な動物たちが生息する。さまざまなスタイルのサファリが楽しめるが、主役はあくまで野生動物たち。人間はその世界にちょっとお邪魔しているだけだ。“エコ”な観光は自然への敬意が基本で、そうすれば動物たちはユニークな自然の姿を見せてくれる。国立公園内に点在するロッジも環境に配慮した造りで、自然保護と観光が見事に調和しているのも大きな特徴だ。

野生動物に出会える方法もさまざま

野生動物の生息地、生態、行動など動物の生態学上の方法もさまざまだ。『動物の中民族的な方法はゲームドライブ、サファリ・サバイバル、サファリ・ウォーキング、サファリ・レンジャーと一緒に動物を探すこの他にはレンタカーをしながらジャウ馬に乗りながらある。いは上空から大自然を観察するのも特別な体験だ。海ではボートにリフトがダイビングペンギンと陸から手軽に観察できるなどもしみ方はいろいろだが、いずれにせよ楽しいのは、自然と一体になれることだ。

1 バルーンサファリ

熱気球に乗って上空から南アフリカ大地の自然と野生動物を眺めるツアー。離国立公園のほか、同じくノースウエスト州のマノバイバグ、クルーガー国立公園クワズ・ルナタール州のコラドンでも熱気球ツアーを体験することができる。

©Sabi Sabi Earth Lodge

2 ホースバックサファリ

乗馬をしながら馬上から野生動物を観察するツアー。離れた場所から眺めるサファリとは異なり、キリン、シマウマ、バファローなど草食動物に限りなく近づくことができるため、より自然と一体となったサファリを楽しむことができる。

カラハリ・トランスフロンティア・パーク

【スプリングボック】南アフリカ版のヨウレイ科シカの仲間の動物。ラグビー代表には「Springbocks（スプリングボックス）」という愛称があり、代表チームのユニフォームには前足を高く上げて飛び跳ねるスプリングボックのエンブレムが全胸に配されています。

【インパラ】
「ほぼ常にMの文字あり」とでもいうべき「あめ」とトレンジーの模様は「マクナチュラル」の愛称を持つ。

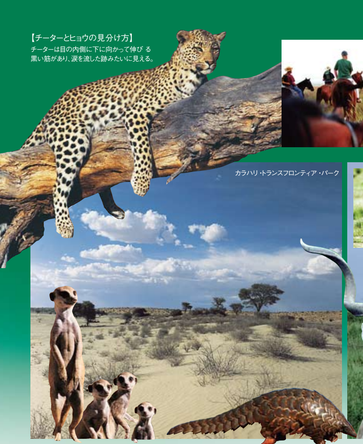
カラハリ・トランスフロンティア・パーク

3 エレファントバックサファリ

ゾウの背中に乗って自然の中を進む。視線は上に高く、そこから広がる風景はほかのサファリでは味わえないものだ。最も代表的なエレファントサファリ・スポットはクルーガー国立公園の外側にあるホートスフリート近辺。

アッド・エレファント国立公園

【チーターとヒョウの見分け方】
チーターは目の内側に下に向かって伸びる黒い筋があり、涙を流した跡みたいに見える。



カラハリ・トランスフロンティア・パーク

4 モーニングサファリ

野生動物たちの動きが活発な早朝に行われるゲームドライブ。コーヒーとスナックなどを軽く朝食を取ってから出発する。朝のさわやかな風を感じながら草原を巡るだけでも気分は最高。日の始まりとともに動物たちが活動を始めるシーンに出合うことができる。

5 イブニングサファリ

多くの野生動物たちが活動的になる夕方から夜にかけて行われるタイプのゲーム。ナイトサファリとも。レンジャーは足跡や糞などさまざまな情報から動物の行動を読み取り、車を進めていく。日が暮れると、ランタンを灯し、シャンパンを片手にビルトン等の軽食も楽しめるのだ。

6 ウォーキングサファリ

レンジャーと一緒に歩きながら楽しむサファリ。車からでは見つけることのできない動物や植物に出会える、知識豊富なレンジャーから興味深い話を聞けるのもこのサファリの醍醐味のひとつだ。各動物保護区には変化に富んだ多タイプのトレイルが用意されている。

フィンダ・ゲーム・パーク

【注意事項】
トイレは事前に済ませ、派手な色の洋服は避けカーキ色や緑色を選ぶ。激しい動作や大きな声は出さない。ちなみに南アフリカの場合は、マラリア予防接種は不要。

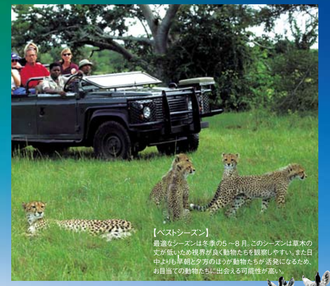
リンドバーグ・プライベート・ゲーム・エステート

【動物ウォッチングのマストアイテム】
双眼鏡は、動物探しの必須アイテム。夏でも、山や海では夜間冷え込むので、ウインドブレーカーやセーターなど重ね着できると重ね時間で、南アフリカは平均日照時間が11.8から18.5時間と長く、冬間を通じて日差しが強いため、日焼け対策が必要。帽子、サングラス、日焼け止め、虫除けなども持参するのがお薦め。

クルーガー国立公園

©Sabi Sabi Earth Lodge

サファリ滞在中はラグジュアリーなロッジで快適に過ごす。



【ベストシーズン】
最適なシーズンは冬季の5～8月。このシーズンは草木の丈が低いため視界が良く動物たちを観察しやすい。また日中より早朝や夕方のほうが動物たちが活発になるため、お目当ての動物たちに出会える可能性が高い。

©Ocean Blue Adventure

1 サーディンラン

10月頃から言われるイワシの大群が翌年6月から7月にかけて南極水域から東海岸沿いを一路に北上。そのイワシを狙って、サメやクジラなども集まり、壮大な海中スペクタクルが展開される。この時期にクワズールー・ナタール州サウスコストで開催されるサーディン・フェスティバルも楽しみのひとつだ。

©South Coast Tourism

2 ケージダイビング

海中に設置されたケージの中に入って、間近に迫ってくるメガロドンを観察することができる。臭いを放ちながら目の前を回遊し、チラリとこちらを覗いてくることもあるサメの動きはスリル満点だ。ベストシーズンは12月～2月の夏季。

©Alexander Safonov

ケープタウンのボルダービーチは可愛らしいペンギンに出会えることで人気の観光スポット

3 ホエール・ウォッチング

ケープ半島のハマナスをはじめ、南アフリカの南岸沿いはミナミセミクジラが世界で最もよく見られるスポットとして知られている。毎年6月頃に南極の海から北上し、11月頃まで南アフリカ沿岸にとどまるクジラの生態を近距離で観察することが可能だ。

4 ボートトリップ

クルーズボート、シーカヤックなどに乗って、さまざまな動物を船上から観察するボートトリップも人気だ。例えば、ケープタウンでは、ペンギンやザラシ、ボートエリザベスではサメ、クジラ、イルカなどを見ることができる。陸上とは違う視点が楽しい。